

様式1 令和2年度 山梨県立甲府東高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自ら考え、自ら判断し、自らの考えをもって主体的に行動しようとする生徒、他者を尊重し思いやり、他者のために動くようとする生徒の育成
-----------	--

山梨県立甲府東高等学校校長 佐野 修

本年度の重点目標	教科内での指導法等情報交換の促進と個別指導を充実させ、深い学び、対話的な学び、主体的な学びへ、授業を改善する
	総学・課題研究・探求サブリをはじめとする探究活動を充実させ、生徒の自己肯定感の醸成に努める
	学校教育活動のあらゆる場において育てる力を意識し、勉強も部活動も学校行事も、すべてに取り組める環境づくりに努める

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標		年度末評価(2月15日現在)		
		具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	教科内での指導法等情報交換の促進と個別指導を充実させ、深い学び、対話的な学び、主体的な学びへ、授業を改善する	各科目における授業目標の明確化を図り、相互授業参観を踏まえた研修会の実施、各科目での指導方法及び教材の共有化等の促進	授業アンケート、各教科の反省	・休校期間中に徐々に授業配信のシステムが構築され、リモートでの懇話等も可能になった。しかし、個々の生徒の学習状態や理解度等、生徒の状態を判断を把握することは難しかった。 ・センター研究協力校として英語・数学を中心に「深い学び」になる研究を推進し、指導方法の研究や共有化の一助になった。 ・授業時数確保のために行事等を精選し、授業時間の確保に努めた。後期からは授業時数を確認しながら、無理のない範囲内で年度当初の予定に戻すなど臨機応変に対応した。	B	・令和3年度は、センター研究協力校2年目として、「深い学び」の実現を通じて、各教科において生徒に身に付けた力を明確にして単元の指導計画を行う。また、各教科内で情報交換を行うために教科会議等を活発に行う。 ・ICTが使いやすい環境になるので、それらの活用を行いながら授業改善を実施していく。 ・面接や小論指導などの個別指導は、Teamsなどを利用して効率化を図る。
2	総学・課題研究・探求サブリをはじめとする探究活動を充実させ、生徒の自己肯定感の醸成に努める	総合的な探究(学習)の時間やLHRを使って、自分の考えを表現・発表して意見交換する等のコミュニケーション能力、協調性の醸成	教員・生徒アンケート、生徒レポート、各学年の反省	・今年度はコロナ禍により授業の開始が遅れ、予定を大幅に変更した。予定された探究活動が実施できず、「探究サブリ」も数回の実施となったが、オンラインでの大学との交流や、年度の後半ではミニ大学の実施や課題研究発表会の実施をおこない、今年度できる範囲での活動を行い、生徒自身の可能性を広げる取り組みとなった。	B	・「総合的な探究の時間」を活用し、生徒が能動的に活動する場を設定する。教員が共通の価値観を持ち、密接に連携しながら運営するために、「総合的探究の時間」[SOW]共に全職員がかかわるような体制を構築する必要がある。体制の検討をおこなう。 ・コロナ禍で今年度できなかった取り組みについて、ICT機器やTeamsなど利用して、感染予防や効率化の観点から多角的に検討を行っていく。
		キャリア教育推進のためのミニ大学、職業人講話等の継続・発展	活動実践報告、生徒アンケート			
		生徒の自主的な探究活動をサポートする「課題研究」や「探求サブリ」の時間の充実による3年間を見据えた「総合的な探究の時間」の構築	教員・生徒アンケート、計画・実施についての検証			
3	学校教育活動のあらゆる場において育てる力を意識し、勉強も部活動も学校行事も、すべてに取り組める環境づくりに努める	しっかりと生活習慣をつけるため、校門での挨拶・服装・交通安全指導を毎日(朝礼の日を除く)実施	教員アンケート	・校長をはじめ教職員や生徒が校門での指導をおこない、交通指導や挨拶・服装指導を毎日実施することができた。 ・学園祭が中止になったが、代替行事を生徒会中心に計画実施することができ帰属意識の醸成に効果を上げた。 ・新しい生活様式の中での学校生活、生徒会行事の在り方を生徒が自ら考え提案する機会を設ける。	B	・R2年度は、コロナ禍で高校生活のルールやマナー、東高校生としてのあり方など直接指導する機会が少なくなった。 ・R3年度は新しい生活様式の中でガイダンスができるような方法や機会を工夫して実施を行う。 ・新しい生活様式の中での学校生活、生徒会行事の在り方を生徒が自ら考え提案する機会を設ける。
		生徒が主体的に計画する行事の活性化を図ることに帰属意識の醸成及び互いに支え合う集団の育成	授業アンケート、各教科の反省			
		学業面に限らず、部活動の成果や委員会活動での仕事などについて積極的に声をかけ、よい面をほめることによる生徒の自己肯定感の醸成	生徒アンケート			
4						
5						
6						

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月18日)	
評価	意見・要望等
3	・例年とは違う状況の中で、先生方が一生懸命に取り組んでいる姿に生徒たち自身もその思いや、自らの学びに対しての意識改革もあったことと思われる。「総合教育センター」と連携するなどして、意欲的に教育研究に取り組みながら、深い学びへの授業改善を行っている。 ・本来の学校の特色を出せた取り組みが難しかったと思われる。一方で、オンライン授業の整備を行い、グループワーク、ペアワークなども取り入れた授業は主体性を引き出そうという方向性を感じられた。今年度工夫したことや苦労したこと、思い切って実施してよかったこと等、記録に残していく必要がある。
3	・今年度は施設への訪問や学校を離れての探究活動などは難しかったと考えられる。また、集会などもソーシャルディスタンスを保ちながら活動することは難しかったであろう。しかし、ミニ大学や職業人講話など通常の実施はできなかったが、オンラインやオンデマンドの映像で実施を行い、工夫した取り組みが見受けられる。 ・来年度は、オンライン配信などを取り入れ更なる連携を考えるとできないか。また、今後このようなコロナ禍においてどのような活動ができるのかを次年度以降模索して欲しい。
3	・コロナ禍の先が見えない状況の中で、学校が試行錯誤しながら取り組んでいる姿に生徒たち自身もその思いや、自らの学びに対しての意識改革もあったことと思う。また、早朝からの校門での挨拶、できる限りのイベント開催(体育祭など生徒たちの心に灯をともし教育精神が伝わっていたと感じる。 ・多様性が問題になった社会背景もあるので、先生方の価値観を無理やりそろえようとか、細かな規則等徹底しようとかではなく、生徒が自ら考え判断し決定していけるような仕組みを取り入れてもらいたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。